



インヘリタンスー継承ー

作：マシュー・ロベス 演出：熊林弘高

The Inheritance

演出家・熊林弘高による、6時間半の大作に刮目せよ

演劇はこれまで真摯にLGBTQを見つめてきた。

「真夜中のパーティー」「トーチソング・トリロジー」「エンジェルズ・イン・アメリカ」の系譜につながる超大作！

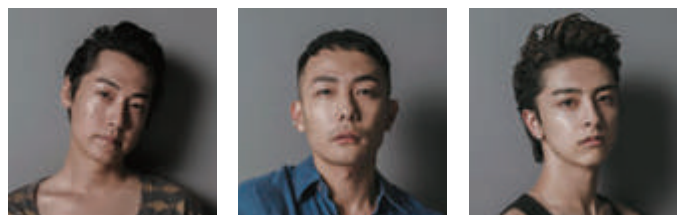
前後篇6時間半の大作である。しかも、2019年のローレンス・オリヴィエ賞4部門、2020年のトニー賞4部門制覇と、ともにベストの作品評価を得ているとなれば、これはもう「観るべし」の一択である。戯曲の作者の名前はマシュー・ロベス。この作品の上演権獲得にあたっては、日本の複数団体から手が挙がり、プレゼンを勝ち抜いたのが、演出家・熊林弘高と東京芸術劇場だった。

熊林弘高は、作品の成立に時間をかける、寡作の演出家だ。戯曲研究を重ね、台本を練りに練る。映画、音楽、演劇、文学、哲学などの深い人文知を俳優たちと共有し、作品深化のための対話を重ねる。その演出は、家族や人間集団の暗部を、欲動を、愛と憎しみを、容赦なくさらす。前後篇6時間半の大作戯曲「インヘリタンスー継承ー」と、演出家・熊林弘高との出会いは、必然だった。芸劇に熊林弘高を訪ねて、話を聞いてみた。

まずは、俳優13人、女優1人(後篇のみ)による、男と男の性と愛の物語について。ちなみに本作、R-15指定である。「俳優たちの濃厚接触? それはしないよね。今回、インティマシー・コーディネーターにも入ってもらって、このシーン、あのシーンはこういう風に、参考映像も全部見てもらっています。性愛の表現という情念っぽくなりがちですが、ミハエル・ハネケ監督の映画『ピアニスト』や、演出家パトリス・シェローのような、知性もあり品もあって、エロスの表出がきちんと表現になっているものになりたい」

演出家に「インヘリタンスー継承ー」というタイトルが意味するものを質問すると、「ごく私的ですが」と前置きして、「自分が今までに出会ったクィア作品って何だろうと思ったときに、最初に浮かんだのが映画『蜘蛛女のキス』でした。ルキノ・ヴィスコンティ監督作品に、アン・リー監督の『ウェディング・バンケット』『ブローックバック・マウンテン』。フランソワ・オゾン監督の『ぼくを葬る』。グザヴィエ・ドラン、ペドロ・アルモバルの映画に、ベルナルド・ベルトルッチ監督の『暗殺の森』、ウォン・カーウアイ監督の『ブエノスアイレス』。アカデミー賞を獲った『ムーンライト』。映画が多

上段左より
福士誠治 田中俊介 新原泰佑
榎木玲弥 百瀬朔 野村祐希 佐藤峻輔
久具巨林 山本直寛 山森大輔 岩瀬亮
篠井英介 山路和弘 (後篇のみ) 麻実れい



いんです」という答えが返ってきた。クィア作品の歴史が「継承してきたもの」、それは、慎ましく、ロマンチックな「踊り」だと言う。『グザヴィエ・ドランが監督した『トム・アット・ザ・ファーム』に、なぜ、ここで、農場でタンゴを踊るの? という場面がある。でも、クィア映画の中のタンゴと言えば、ウォン・カーウアイの『ブエノスアイレス』のトニー・レオンとレスリー・チャン、ベルトルッチの『暗殺の森』ではドミニク・サンダ。何でも、最古のクィア映画と言われている無声映画の映像があって、それは、男と男がふたりで、蓄音機の前で踊るというもののだそうです。その最古のクィア映画を、ベルトルッチやウォン・カーウアイが意識していたかどうかはわからない。でも、男と男、同性同士が踊るということが、クィア映画の歴史の中で脈々と継承されてきた。今回の『インヘリタンスー継承ー』にも、その継承の石垣の石のひとつとして、そういうシーンを入れたい。それが、自分にとっての、極私的な『継承』なんです」

最後に、この戯曲の日本版完成台本を2時間半でイッキ読みした者からアドバイスする。①人間関係はシンプルだから混乱しない、②この戯曲の題材になっている小説『ハワーズ・エンド』のことは知らなくてもOK、③物語は停滞せず力強く進んでいくから退屈なし、④素晴らしい戯曲、⑤ラストのカタルシスは無限大。以上、信じていただいて大丈夫。

取材・文：戸塚成



2024年2月11日(日)～2月24日(土) プレイハウス 詳細はP10へ

作：マシュー・ロベス 演出：熊林弘高
訳：早船歌江子 ドラマターグ：田丸一宏
出演：福士誠治 田中俊介 新原泰佑
榎木玲弥 百瀬朔 野村祐希 佐藤峻輔
久具巨林 山本直寛 山森大輔 岩瀬亮
篠井英介/山路和弘(後篇のみ) 麻実れい

www.inheritance-stage.jp
*大阪、北九州公演あり



—2015年から18年のニューヨークを舞台に描く、ゲイの人々の群像劇

1980年代のエイズ流行初期の悲惨な混乱を生き延びた60代、今やHIVとともに生きていくことが可能になった20代、30代の男たちが登場するが、若い世代は年上世代が経験した、エイズ=死であった暗黒の時代を知らない。また、彼らそれぞれが、共和党、民主党の支持者であり、成功者と不遇な者、金持ちと貧しい者、それぞれの境遇や属性を持つ。そうしたそれぞれの持つ背景が、微妙な人間模様を織りなしながら、

物語は、財産家のヘンリー(山路和弘)とそのパートナーのウォルター(篠井英介)、慎ましく誠実な主人公のエリック(福士誠治)、作家のトビー(田中俊介)のふた組のカップルの愛と別れを軸に進んでいく。作者マシュー・ロベスは、若かりしころに感銘を受けた、E.M.フォースターの名作小説『ハワーズ・エンド』の作品世界を換骨奪胎して、この長大な戯曲を書き下ろした。

文：戸塚成